

平成30年度 懐風館高等学校第2回学校運営協議会議事録

日 時 平成30年11月16日（金） 13:30～15:30

場所 大阪府立懐風館高等学校校長室

出席者氏名

校長 柴浩司

協議委員 大関雅弘（会長）、高井基晴（副会長）、易寿也、松村章生、黒川達也、
本村香尾里

事務局 高橋雅彦、松田昌彦、河崎徹巳、大辺明、菖蒲侑介、西原承憲、麓博之

1. 校長挨拶

2. 会長挨拶

3. 議案（学校経営計画の進捗状況について）

校長より

- ・授業アンケートについて

協議委員より

- ・新たな取り組み（ICTの活用等）については、短期間で結果を求めるのではなく、一定の期間をかけて、学校全体に浸透させていく必要がある。
- ・アンケート結果のみを評価するのではなく、校長、教頭のこまめな授業観察を行い、生徒の学習意欲を高める授業、確かな学力を伸ばす授業を求めている。
- ・授業アンケートの結果と模試の結果を組み合わせる方法もある。

4. 授業見学

協議委員より

- ・これからの大学入試には問題を処理するスピードも必要になるので、プリントやICTなどを活用した授業は有効であると思われる
- ・グループ活動などでにぎやかになる時間と、集中して聞いたり考えたりする時間のメリハリを大事にすべきである

5. その他

校長より

- ・国際教育の充実、海外研修について
- ・地域との連携（羽曳野市長訪問、ボランティア活動等）、地域に還元できること
- ・今後の課題
 - ①時間外勤務の減少（昨年度より過重な時間外労働は減少している）
 - ③旧7学区の中学校の卒業生数が大幅に減少する見込み（特に富田林市）
→来年度入学の志願者数も厳しい見込み

協議委員より

- ・羽曳野市にただ1校の公立高校というのを大切にすべきである。
- ・懐風館を残すためには粘り強さが必要。
- ・地域のニーズに応える、地域とのつながりを大切にする。
- ・農業などの面において、地域で活躍する人材を育成する。
- ・地域を支える卒業生を輩出することによって、「やっぱり懐風館は必要だ」という市民の声を生んでいくように。
- ・ワイン、ぶどう作りなどを通して生徒の具体的な誇りに。
→懐風館生が使われていないぶどう畑を活用してぶどうを栽培する
- ・懐風館の魅力を外に発信していく
- ・懐風館高校がある意味を、生徒を巻き込んで考える→楽しく語れるように
- ・（高大連携の観点から）子どもたちにどれだけ多様な形で教育できるか、具体的に何ができるかを考える
- ・同窓会との協力で懐風館の未来を創造していく

6. 閉会挨拶（校長）